

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

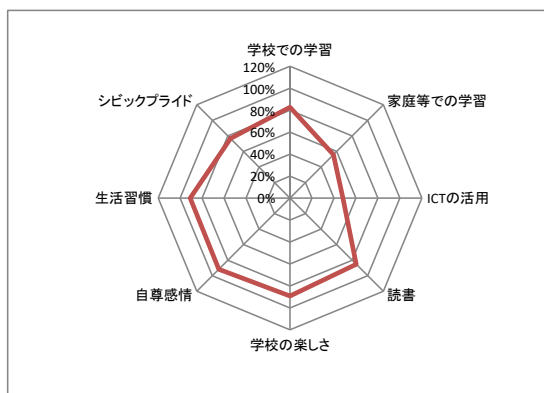
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」などの思考力・判断力に関する内容が下回っていた。全体的に正答率は下回っていた。特に、自分の考えを表現することや言語文化に関する事項が苦手傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができている。	
	努力が必要な問題	自分の考えをまとめて記述することが苦手であるため、個人差に応じた学習活動が必要である。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」「データの活用」の記述式の問いに対する正答率が下回っていた。全体的に正答率が低くなっている。特に、計算や証明などの問題に対して苦手な傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象を理想化・単純化されたグラフを事象に即して解釈し捉えることができる。	
	努力が必要な問題	基礎基本の見直しや、事象を数学的に解釈し、問題解決できる内容の問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回ってはいるが、「読むこと」に対する正答率は上回っている内容もある。また、自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くことに関しても、やや上回る傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題などを自分の考えを整理して記述することができる。	
	努力が必要な問題	「聞くこと」に関する問いに対して苦手な傾向がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがあるか」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」の問いに対して、全国的にはやや下回っているが、登校することの楽しさや、これまでの学校での活動の結果から本校としては増えてきている。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・ICTを活用した授業の確立は今後の課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・個に応じた基礎基本を定着させる学習活動が必要である。また、達成感が味わえるような補充学習等の拡充を図る

② 家庭生活習慣等に関する取組

・生活習慣は概ね平均的であるが、家庭学習の時間が大幅に下回っている。目的意識をもった家庭学習の重要性を理解させ、家庭での過ごし方について伝えていく。